

# 『英和対訳袖珍辞書』再版におけるメドハースト『英華字典』の利用

——主に再版原稿資料を中心に——

肖 江 楽

## 1 『英和対訳袖珍辞書』再版原稿及び解説について

『ニュースボード』第六八号には名雲純一氏による『英和対訳袖珍辞書』再版原稿についての解説があり、次のように記されている。

- 慶應再版一刊本と同じ鳥ノ子紙二印刷サレタ原稿  
A (5〜24頁十枚) E〜F (263〜286頁九枚)  
D (217〜238頁十一枚) G〜H (337〜360頁十二枚)  
H〜I (361〜384頁十二枚) 1 (389〜402頁七枚)

なお、堀孝彦・三好彰(二〇一〇)は、この原稿資料に対する、詳しい紹介があるが、その内容の一部を次に掲げておく。

校正原稿は12枚(刊本の24ページ分)毎にコヨリで束ねて綴じてある。コヨリの束ごとに番号が印刷されており、それは、

初版刊行本に印刷されている番号と同じである。発見された校正原稿のコヨリの数は6束あるが、一部に欠落したページがあつて合計124頁である。刊行の見出し語部分の総数は954ページなので全体のなかの約八分の一に相当する。

6つあるコヨリの束の最初の語は次の通りである。

Abrogate ` Discommendation ` Esplanade `  
Godfather ` Heaviness ` Impertious

『英和対訳袖珍辞書』初版よりも辞書の前半部分に集中している。

なお見出し語の Establishment から Evagation までの56語が『英和対訳袖珍辞書』初版の草稿と改正増補版(慶應2年刊)の原稿に共通に出ている。(略)

そのほか、原稿資料の各頁には、校正者らしき署名「堀」、  
「horits」<sup>1)</sup>、「ホ」、「高」、「堀田」、「タ」、「中島」、「森」、「miki」、  
「木村」、「木?」<sup>2)</sup>があり、その中で、「ホ」と「高」のサインが最も多く見られる。これらの署名に対して、「堀・horitsは堀達

之助か、「ホは堀越?」、「高は秋帆の孫—高島太郎であろう」、「堀田は堀田政次郎?」、「タは田中芳男かもしれない」と、堀孝彦は指摘している。特に、漢字「堀」の筆跡が堀達之助の退職願の直筆署名と酷似していることも付け加えている。そして、推定できない人名については今後の課題であるとする。

一方、櫻井豪人(二〇〇七)は、再版原稿資料の訳語の前に見える「○」と「△」について、下記のように述べている。

これは何を意味するのか、恐らく、初版の本文に訂正を加える際、予め博物学関係の語には朱で「○」を書いて置き、各頁下部に記されている校者とは別に田中芳男がこれらを逐一点検し、訂正していったのであろう。訂正すべき語には朱で訂正を加えた上で「○」の中に「、」を入れ、訂正の必要のない語にはただ「○」の中に、「、」のみを書き入れたものと想像される。

(中略)

「○」と同様の場所に、「△」と朱書されている語のあることに気が付いた。この記号を辿って見ると、度量衡や貨幣に関する語につけられていることが察せられたが、それ以外にも医学・薬学関係と思われる語のいくつかに記されていた。

また、「○」同様、「△」でも多くの場合その中心に朱で「、」と書かれていた。

前述のことから類推するに、この「△」は柳河春三による改訂箇所ではないかと考えられる。(後略)

また、三好彰(二〇〇七)は、原稿資料の校正箇所について、「再版原稿の見出し総数は428語で、慶應二年版の全体の中の1.2%に相当する。その中の141語に朱が入っているので、校正箇所の比率は33%になる。つまり、約3語に1つに大幅に改訂が行われている」と指摘する。そのほか、見出し語の追加、削除、誤植訂正についても言及している。

しかし、これらの考察においては、再版原稿に新たに増補された訳語が、一体何に由来するかについての論述が見当たらない。おそらく、三者ともこれらの訳語が、辞書の校正者によって新しく創出されたものと考えたため、検討が加えられなかったのかもしれない。そこで、本稿では、まず新たに追加された訳語の出自を探し求め、再版における利用資料への検討を含めながら、辞書の成立及びその刊行について論じることにはしたい。

## 2 再版原稿からみる訳語の変化

第一級原稿資料の発見により、初版原稿から刊行へ、そして、再版原稿から刊行までを通して、訳語がどのようにに変更されてきたのがよりいっそう明らかになった。本稿では、再版原稿資料から読み取った情報に基づき、「Fair」「Idol」「Inadvertence」の訳語を例として、改版された訳語がどのように成立し、そして改良され、最終的に辞書に収録されていたのかを考察する。分かりやすくするために、下のような表を作成した。

表1

資料	Fair	過程
初版	年々一度ズツ有ル市	借用 (『メ氏辞書』) 美女。美麗
メドハースト 『英華字典』	美女。美麗	↓
再版原稿修正前	年々一度ズツ有ル市 美女。美麗	修正 美人。美麗
再版原稿修正後	年々一度ズツ有ル市。 美人	↓ 決定 美人
再版刊行本	年々一度ズツ有ル市。 美人	署名 ホ

表1は、再版原稿の訳語を校正する際、初版の上にメドハースト『英華字典』(以下『メ氏辞書』と称することとする)に見える「美女」、「美麗」を直接に追加した例である。しかし、これら

表2

資料	Idol	過程
初版	仏	借用 (『メ氏辞書』) 神像
『メ氏辞書』	神像。偶像	↓
再版原稿修正前	神像。本尊。像	修正 神像。本尊。像
再版原稿修正後	本尊。像	↓
再版刊行本	本尊。像	決定 × 本尊。像 署名 ホ

表3

資料	Inadvertence	過程
初版	賤ムヲ	借用 (『メ氏辞書』) 怠慢。不覚
『メ氏辞書』	怠慢。不覚	↓ ↓
再版原稿修正前	怠慢。氣付ヌヲ。	修正 怠慢。氣付ヌヲ
再版原稿修正後	輕慢。氣付ヌヲ。	↓ ↓
再版刊行本	輕慢。氣付ヌヲ。	決定 輕慢。氣付ヌヲ 署名 ホ

の訳語は再版では採用されず再び削除され、改めて消した訳語の傍らに「美人」を書き入れ、最終的に「美人」は再版刊行本の訳語として収録されている。なお、当ページの署名は、「ホ」と朱書きされている。

2.2 訳語—Idol (アイドル)

表2は、再版原稿では、訳語「神像」を消したようすが見受けられる。代りに新たに「本尊」、「像」を追加する。この追加した訳語はそのまま再版の刊行本として用いられている。一方、追加したばかりの訳語「本尊」は、「Idol」の形容詞「Idolatrious」の訳語として採用されず、再び「図像」と交替している。なお、当ページの署名は、「ホ」と書かれている。

## 2.3 訳語—Inadvertence 220207

表3は、最初に新たに追加した「怠慢」の漢字「怠」を消し、その傍らに再び別の漢字「輕」を書き入れたものである。最終刊行本では、修正した後の訳語「輕慢」が用いられている。また、原稿資料に見える「氣付又」は、『メ氏辞書』の訳語「不覚」と意味上で共通する点に興味深いところである。なお、当ページの署名も、表1・表2と同じで、「ホ」と記されている。

このように、最初に増補され、再び削除された訳語は『メ氏辞書』と一致するため、そこから借用された可能性があろう。ただし、校正者「ホ」が、メドハーストの訳語をそのまま受け継ぐことなく、意図的に「美女↓美人」、「神像↓像」、「怠慢↓輕慢」と改変を加えていく過程はどのように解釈すべきであろうか。改訂された訳語は、削除された訳語との関係を深く吟味すればするほど綿密に繋がっており、修正しなくても日本語として使用可能である。

一方、再版原稿の訳語（或は再版刊行本）は、『メ氏辞書』と一致する場合もある。次のページの表4の通りである。〔○〕…

刊行本の訳語は再版原稿と一致する。

表4にある訳語は、『メ氏辞書』と一致しているため、再版原稿の校正者によってそこから取り入れられたものであると考えられる。また、表にある署名「ホ」、「高」、「木村」、「中島」に焦点をあてると、比較的「ホ」が多く見られるため、校正者「ホ」は『メ氏辞書』と関係が深い人物であることが推測される。

そして、筆者は初版と再版との全面的な比較に着手し、初版と異なつた訳語のすべてを電子テキスト化した。<sup>4</sup>これによって、改訂された訳語の正体が容易に検索可能となり、再版には、少なくとも八八語が『メ氏辞書』と一致することが判明した。詳細については別稿に譲ることにする。

## 3 再版原稿における『メ氏辞書』の利用

再版原稿の校正者は、訳語を改良する際、『メ氏辞書』を参看したと見てよいように思われる。当然のことながら、『メ氏辞書』から重要なヒントを得て新たに改変を加えて出来あがつた訳語もある。『メ氏辞書』と関連がある訳語を特定することはなかなか困難であるが、本稿では、再版原稿資料の訳語に対して出来る限り詳細に検討を加え、その改変方法を考察することにする。調査結果は、次のページの表5の通りである。

表4

見出し語	初版	『メ氏辞書』	再版原稿	署名	再版
Agrimony	草名未詳	龍牙草	龍牙艸	中島	○
Double	重リタル。欺ク。	兩倍 二心	重リタル。二倍ノ。 二心アル	ホ	○
Drain	泥ノ流レ込マヌ様ニ 水下ニ堀テアル溜池。 水堰ノ付タル水溜。小堀	溝渠	溝渠。水ハキ	ホ	
Exact	細密ナル	精密	精密ナル	ホ	○
Fair	立派ナル。黄ハミテ居ル。善キ。恵ミアル。結構ナル。和ラカナル	美、美麗、 正直	美キ。奇麗ナル。明カナル。善キ。恵ミアル。正直ナル。和ラカナル	ホ	○
Famished	飢シメル。カツヘル。兵糧攻メスル	餓死	飢シメル。カツヘル。餓死スル	高	○
Hanging	掛テアル物。毛壇ノ類	Hang 縊死	掛テアル物。毛壇紙等ノ類。縊死。顕シ	ホ	○
Hoof	馬爪	蹄	蹄。獸	ホ	○
Illiberal	賤シキ。限ラタル。不都合ナル。臆病ナル	吝嗇	小器ナルヲ。吝嗇ナルヲ。限ラシタルヲ。	高木村	○

表5

見出し語 辞書	初版	『メ氏辞書』	再版原稿	再版 刊本
Abrupt	切レ切レナル。不意ナル。突然ノ。	嶮危	切レ切レナル。不意ナル。嶮キ	○
Acanthus	草名未詳	葦花芳	葦花 (薬草ノ名)	○
Acorn	「ウワーク」樹ノ実	橡實	橡栗	○
Adequate	一樣ノ。全シキ。平均ノ	堪当	一樣ナル、相当シタル	○
Adjust	平均ニスル	修整、整齊、 打整齊	平均ニスル。整ヘル。 仲直リスル	○

Affect	仕事スル。動カス。 上ベヲ飾ル。感スル	戀愛	仕事スル。動カス。上 ベヲ飾ル。感スル。愛 スル	○
Advice	知告。指図。評議	勸戒、勸言	知告。指図。評議。助 言	○
Against	ニ反シテ。ニ付テ。 側ニ	相向	ニ反シテ。ニ向テ	○
Ahead	速カニ。大急テ。先 越シテ	在頭前	速カニ。前ニ。 先越シテ	○
Allegiance	信実	忠信之道	忠義	○
Dismal	物スゴキ。愁テ居ル	黑暗	物スゴキ。愁テ居ル。 暗キ	○
Dreggy	濁リタル。 粗キ	多滓	滓アル。穢キ	○
Evidence	証拠。明白ニ見テ居 ルヲ	証見之人	証拠。証書。証人	○
Exaltation	高メルヲ。精心ノ動 キ	高位	高メルヲ。高貴。盛誉。 精良	○
Exhaust	尽ス。水ヲ操リ出シ 尽ス。困窮スル	空盡	尽ス。水ヲ操リ出シ尽 ス。空虚ニ	○
Exhibit	顕ハス	指示	顕ハス。示ス	○
Extraneous	異ナル。珍シキ	他物	異ナル。他ノ	○
Feces	吐出ス物。下ス物	滓	濁滓（酒ナトノ）。下 ス物	○
Faint	氣ノ遠クナル。氣絶 サセル	軟弱。失去。	氣ノ遠クナル。氣絶サ セル。弱ナル。失セル	○
Fame	噂サ。評判	名聲	名誉。評判	○
Fat	脂	大桶	脂。桶	○
Fatality	不運ナルヲ。	Fate 命運	不運ナルヲ。運命	○
Grant	恵ムヲ。救ヒ。贈物	許	贈ルヲ。許シ。贈物	○
Grasp	握ル。屈ク勢	抱	握ル。抱キ。保ツヲ	○
Gravity	重サ。重力。行儀正 シキヲ	嚴重之心、 威嚴	重サ。重力。威重	○
Grazier	肥タル畜類ヲ商フ 人	牧牛之人	牧飼スル人	○

Grow	成長スル。成ル	生、生長	成長スル。成ル。 生ズル。増ス	○
Hall	家ノ寄り付き。客 殿。住居。城市中ノ 役所。大学校ノ寄合	廳、堂、貢 院	書院。廳堂。集会所	○
Haunt	見舞フ。苦シメル	煩擾	見舞フ。煩ハス	○
Hiatus	空隙。穴	張開の口	空隙。穴。口ヲ開ク	○
Hollow	窪ミタル。心ヲ打明 ケヌ。尽ク	空	窪ミタル。詐リアル。 空ナル。タヤスク	○
Homage	隨身	恭敬	隨身。尊敬	○
Hoot	ヨイヤト誉ル	叱	叫ブ。叱退ケル	○
Husk	皮剥ク。箕ニテヒル	礬去殻	皮剥ク。殻ヲ去ル	○
Ignorant	無孝ノ	無知	無孝ノ。知ラザル	○
Illume, Illumin e, Illuminate	彩色スル。輝ラス	照	耀カセル。照ラス。 飾ル	○
Incommod	退屈シ果ス。妨ゲ ル。難クスル	煩惱	煩ハス。 不都合ニスル	○

表5に基づいて、校正者は以下のパターンによって、『メ氏辞書』の訳語に改変を施し、再版原稿の訳語に当てたと考えられる。

(1) 一字漢語の場合は、直ちに訓読みする

『メ氏辞書』

再版

Grain 許 → Grain 贈ル。許シ。贈物  
Grasp 抱 → Grasp 握ル。抱キ。保ツ  
Grow 生 → Grow 成長スル。成ル。生ズル。  
増ス

(2) 句の場合は、日本語として適用させるため『メ氏辞書』の

訳語に修正を加える

『メ氏辞書』

再版

Evidence 証見之人 → Evidence 証拠。証書。証人  
Allegiance 忠信之道 → Allegiance 忠義  
Hiatus 張開の口 → Hiatus 空隙。穴。口ヲ開ク  
Husk 礬去殻 → Husk 皮剥ク。殻ヲ去ル

(3) 二字漢語の場合は、さらに細かく次の二種類に分かれる

① 二字漢語中の一語を削除し、残りの一語を訓読みにする

『メ氏辞書』

再版

Abrupt 險危 → Abrupt 切レ切レナル。  
不意ナル。險キ  
Adjust 修整。整齊 → Abrupt 平均ニスル。整ヘル。  
仲直リスル

Incommode 煩惱 ↓ Incommode 煩ハス。不都合ニスル

② 新たに二字漢語を用いて『メ氏辞書』の二字漢語と交替させる。この二字漢語は、『メ氏辞書』の訳語と顕著な類似関係がある。

『メ氏辞書』

再版

Advice 勸言

↓ Advice 知告。指図。評議。助言

Fame 名聲

↓ Fame 名譽。評判

Honage 恭敬

↓ Honage 隨身。尊敬

そのほか、「廳、堂↓廳堂」のような訳語の合併、「命運↓運命」のような語順顛倒のパターンも想定される。

#### 4 再版原稿における他資料の利用

##### 4.1 「英華辞典」

『メ氏辞書』が校正者によって新たに訳語を増補する場合に再び利用されたことは言うまでもなく、ウイリアムズ『英華字典』をも活用したことが櫻井(二〇〇二)によって明らかにされている。次に、再版原稿資料からウイリアムズ『英華字典』における再版の成立に関わる訳語を抽出しておく。その結果は表6である。さらに、どのような書物を参看したのかについては、下記のような資料が挙げられる。

##### 4.2 初版自体―「想像」を例として

初版の訳語がどのように再版に吸収されていったのかは、なかなか解明したい問題である。そこで、訳語「想像」を取り上げ、どのように再版に収斂されていったのか、表7によって考察してみたい。

再版原稿資料にある見出し語「Fanciful」想像ノ」の訳語は、初版「Fancy-ied-yin 想像スル」を参照し、そこから借用してきたものである。このほか、「Adviser's 指図スル人」「Disreputable. adj. 賤シキ」「Downrightadv. 真直ニ」「Evil-minded.adj. 悪心」「Humanity's. 人間」などの記述も散見される。

##### 4.3 「ウエブスター辞書」

早川勇(二〇〇七)「ウエブスター辞書と明治の知識人」では、再版の参照資料について下のように言及されている。(傍線は筆者による)

「慶応二年(一八六六)の『改正増補 英和对訳袖珍辞書』は次の二点を特色とする。附録の付加と訳語の充実である。

この改訂版は堀越亀之助の手を経ているが、博物学に関する訳語の選定付加には柳河春三と田中芳男が参画した。(中略)

第二の特色は、「不規則動辞表」(二十二頁)

「ABBREVIATIONSEXPLAINED」(十六頁)「ARBITRARY SIGNS. 象形記号之解」(六頁)の附録を巻末に挿入した点である。「不規則動辞表」を除いた附録はウエブスター辞書



から転載した。年代的にはウェブスター大辞典の一八六四年版を利用したとしても不思議ではないが、堀越は一八五九年版を利用した。問題は「不規則動辞表」の出所である。一八五九年版大辞典を含めながらウェブスター辞書には不規則動詞表は収録されていない。結論的には、何らかの英蘭辞書を基本としそれを修正したと考えられる。」

筆者は、上記の傍線の部分から貴重なヒントを得て、新たに増補された再版原稿にある見出し語が『ウェブスター辞書』(一八六二年版)、辞書初版の底本とされるH.Picard(一八五七)及び『メ氏辞書』をも含めて、調査してみた。その結果は次のページの表8の通りである。

新しい見出し語は、初版の成立に大きく貢献したH.Picard再版及び『メ氏辞書』には確認できなかった。一方、『ウェブスター辞書』の辞書にはすべて収録されており、そこから借用してきたことは明らかである。また、見出し語の訳語の当て方は、『ウェブスター辞書』の意味記述に沿いながら、訳語を創出するという直訳の方法である。例えば、「Estrivation」の訳語の成立過程を簡単に図示すると、表9の通りである。

再版原稿資料では、新たに増補された見出し語の数が限られているため、再版でどれほどの見出し語が増補されたか、また、どのような特徴があるかについては、改めて別稿に論じたいと思う。

表6

見出し語 資料	初版	ウィリアムズ	再版原稿
Dromedary	駱駝ノ一種	獨峯駝	駱駝(獨峯ノ)
Gourd	南瓜	匏	匏
Hail	霰	雹	雹
Hornet	虻ノ類	黄蜂	黄蜂
Icicle	霜柱	冰柱	冰柱

表7

資料 見出し語	Fancy-ied-ying, v. n. et a.	Fanciful, adj.
初版	想像スル。好ム。 「…ヲ持ツ」	妄想ニテ悩中ニ現ズル像ノアル。 ヲカシキヲノ多クアル。
『メ氏辞書』	意思。意愛。中意。合意	任意
再版原稿資料	想像スル。好ム。 「…ヲ持ツ」	妄想(ニテ悩中ニ現ズル像ノアル。 ヲカシキヲノ多クアル)。想像ノ。
再版刊行本	想像スル。好ム。	妄想ノ。想像ノ

表8

見出し語	H. Picard 再版 『メ氏辞書』	『ウェブスター辞書』 (1862)	再版原稿 (再版刊行本)
Dragoonade		n. The abandoning of a place to the violence of soldiers	s. 場所ヲ兵士ノ乱妨ニマカセルヲ
Estivation		n. The act of passing the summer	s. 夏ヲ過スヲ
Fap		V. i. (To drink to excess) V. t. (To make drunk)	adj. 酔タル
Exulceratory		a. Having a tendency to form ulcers	adj. 全上ノ
Fancifully		In a fanciful manner	adv. 全上ニテ
Guildable		a. Liable to a tax	adj. 運上スベキ
Harbourage		n. Shelter; Entertainment	s. 饗応。守護
Herpes		n. Tetter; an eruption on the skin; erysipelas; ringworm	s. 腫物ノ名
Herpetology		n. A description of reptiles; The natural history of reptiles	s. 爬蟲論
Hookah		n. A Turkish pipe, in which the smoke is made to pass through water, for the sake of being cooled	s. 「トルコ」ノ煙管ノ名
Inconcinny		n. Unsuitableness	s. 不適當ナルヲ

表9

Estivation : The act of passing the summer
↓                    ↓
過ぎる・過ごす    夏            → 夏ヲ過スヲ

#### 4.4 『博物新論』

再版の原稿資料には、下のような興味深い修正がある。

初版  
Hyena. s. 獣ノ名

メドハースト ナシ

再版原稿 ● Hyena. s. 獣ノ名 上「博物新論」野猫ト訳ス

(当頁…ホ)

再版刊行本 Hyena. s. 獣ノ名

初版訳語「Hyena: 獣ノ名」の下のスペースに、「博物新論」野猫ト訳ス」と朱書きされ、再び削除された痕跡がある。結局、「再版刊行本の訳語は、初版のままであるが、誰かが『博物新論』を利用して、再版原稿を校正していったことが分かる。そして、それは、辞書序文に提起された博物学者、田中芳男ではないかと推測される。

#### 4.5 「蘭和辞書」

周知のように、日本の英学は蘭学から転じてきたものである。

日本初の近代の本格的な英和辞書『英和对訳袖珍辞書』の誕生は蘭学の終焉を告げた象徴的な出来事であったと言ってもよい。成立時代が早く、継続時間も長く、洗練されて積み重ねて出来上がった「蘭和辞書」が、再版原稿（あるいは再版刊行本）の訳語に影響を与えた可能性も否定しきれない。ただし、初版の訳語が刊行の前に幾度となく校正されたことを考慮すると、再び改訂増補版

に大きく影響を及ぼしたとは考えにくい。

従って、校正者は、少なくとも上記のような資料を用いて、初版の訳語に対する改良作業を行ったと思われる。今後、再版原稿資料をさらに丁寧に調査し、利用資料の正体を突き止めたい。

#### 5 再版原稿訳語と刊行本の訳語

中には、再版原稿の訳語が再版刊行本と一致していない訳語も見受けられる。再版原稿資料によると、改訂する際、初版訳語に「削除」「交替」「添加」などの指示を明確に出しているが、再版刊行本には反映されていない。例えば、「Grateful」の訳語に対する指示は下の通りである。

初版 Grateful. グレートフルadj. 謝スベキ。有難キ。氣二叶フ。快キ

再版原稿 Grateful. ガルadj. 謝スベキ。有難キ。氣二叶フ。快キ。

恩ヲ知タル

再版刊行本 Grateful. ガルadj. 謝スベキ。有難キ。氣二叶フ。快キ

勿論、「Grateful」一語だけでなく、校正指示に従わない訳語は他にもある。このような訳語がどれほど再版原稿資料に存在するのか、全面的に洗い出した結果、四二語であることが分かった。校正者は、訳語に対して、修正指示を施したが、再版には適用されず、初版のままで刊行した。せっかく命を削る思いで突貫作業

をして訳語に修正を加えたが、なぜ再版刊行本には採用されなかったのであろうか。さまざまな原因があるだろうが、現段階では推測の域にとどまる。かりに、これらの訳語が再版刊行本に掲載されていたとしたら、再版訳語の精度もよりいっそう高くなったようにも思われる。

## 6 おわりに

本稿では、再版原稿資料では当初増補改訂されたものが再び削除されたり、また新たに増補されたりした訳語の究明をきっかけとして、先行研究を踏まえながら、改めてこの第一級再版原稿資料について分析を行った。特に、再版の校正者が、『メ氏辞書』を再び借用したことを根拠として、署名「ホ」は「堀越?」ではなく、「堀達之助」である可能性が高いように思われる。さらに言えば、『メ氏辞書』の持ち主である堀達之助は、再版の校正作業に携わったと見るべき可能性も考えられる。

また、本稿では再版に新しく増補された見出し語の出自に対して検証を行ったところ、当時の英学者は、蘭学の影響から脱皮する努力をし、直接英語と向き合っており、訳語を創出したことも看取できた。ただし、校正指示に従わない点から見れば、辞書再版の改訂増補作業に統一性の欠如や不規則などが存在するため、次の改版、即ち第三版『改正増補和訳英辞書』（通称「薩摩辞書」）ではどのような手法を用いたのか、この点が注目される。

## 注

- (1) 「高」が初版原稿資料にも見られるため、同一人物の署名であると、堀孝彦は指摘した。
- (2) 「(中略) 公開された校正原稿でこの語 (Inconinity と Dragonade) が追加されており、この2語が慶応2年版に追加されたことが確認できた。Inconinity が追加するために、文久版で継続する Inconclusive の邦訳語が2行になったのを1行に縮めており、Dragonade を追加するために文久版で2行だった Drains の邦訳語を1行にするようにそれぞれ校正原稿に朱書きで指示しており、その通りで改訂されていることが慶応2年版で確認できた。なお Inconinity と Dragonade は Peard 1804 and Peard 1857 に出ている語である。(傍線は筆者による)」
- (3) 拙稿(二〇一七)『英和対訳袖珍辞書』初版と再版との比較 (AからLまでを中心に) において、再版は、『メ氏辞書』と一致する二字漢語が三六語である。
- (4) 筆者は改変された箇所をエクセルでリストアップした。二〇一六年の八月からこの作業を着手し始め、ちょうど一年を経て、二〇一七年の八月末無事に終了した。今後も改めてチェックを行い、何らかの形で公表する予定である。
- (5) 櫻井豪人(二〇〇二)「開成所の訳語と田中芳男―テンジクネズミ(モルモット)の訳語を手掛かりに―『国語国文』七一―四
- (6) 静岡県立中央図書館所蔵資料 葵文庫江戸幕府旧蔵書 A E 231  
「これは大辞典の一八四七年簡約版で、ロンドンで翻刻されたものである。本書はその第九版にあたる。同じ辞書の一八六〇年版(第八版)が名古屋大学医分館と東京大学に、また一八六

九年版が東京大学に所蔵されている。葵文庫本は江戸時代に舶載された可能性が高いが、他は明治初期に日本に舶載されたと思われる」(一九四頁)

(7) 筆者は、再版に見られる初版と異なった訳語のすべてを電子テキスト化にしたため、どのぐらいの見出し語が増補されたかを容易に見出せる。その結果は、約一〇四の見出し語が増補され、そして、これらはすべて『ウェブスター辞書』(一八六二)に収録されている。

#### 【参考文献】

早川 勇 (二〇〇七) 『ウェブスター辞書と明治の知識人』春風社

三好 彰 (二〇〇七) 新発見『英和对訳袖珍辞書』の草稿および校正原稿の考察 (英学史研究四〇 Historical Society of English Studies in Japan)

堀 孝彦 (二〇〇七) 『英和对訳袖珍辞書』初版草稿、再版校正原稿をめぐって — 開国の息遣い、まよまよと — (英学史研究 四〇 Historical Society of English Studies in Japan)

堀 孝彦・三好彰 (二〇一〇) 『解説『英和对訳袖珍辞書』原稿初版および再版』(港の人)

櫻井豪人 (二〇〇七) 『英和对訳袖珍辞書』初版および改正増補版の草稿 (日本語の研究三 日本語学会)

櫻井豪人 (二〇一〇) 『英和对訳袖珍辞書』初版草稿の諸相と蘭書の利用 (日本語の研究七 日本語学会)

肖 江楽 (二〇一七) 『英和对訳袖珍辞書』初版と再版との比較をめぐって — A から L までを中心に (漢字文化圏近代

語研究会 口頭発表レジュメ)

肖 江楽 (二〇一七) 『英和对訳袖珍辞書』におけるメドハーフト 『英華字典』の利用 — 主に原稿資料を中心に (立

教大学日本文学 第一一八号)

浦田和幸 (二〇一六) 『英和对訳袖珍辞書』の改正増補版 (一八六六) をめぐって 東京外国語大学論集 (九三)

(しょう こうらく 大学院博士後期課程)